

「出生率」

将来の人口減少への対応が、社会の大きな課題となっています。昨年11月30日、県は2040年の合計特殊出生率を、2014年の1.58から2.16に引き上げ、162万人の県人口を確保する「県人口ビジョン」を正式決定しました。今回は、人口問題に関して最近よく聞かれる「出生率^{しゅっしやうりつ}」を取り上げます。

1. 普通出生率

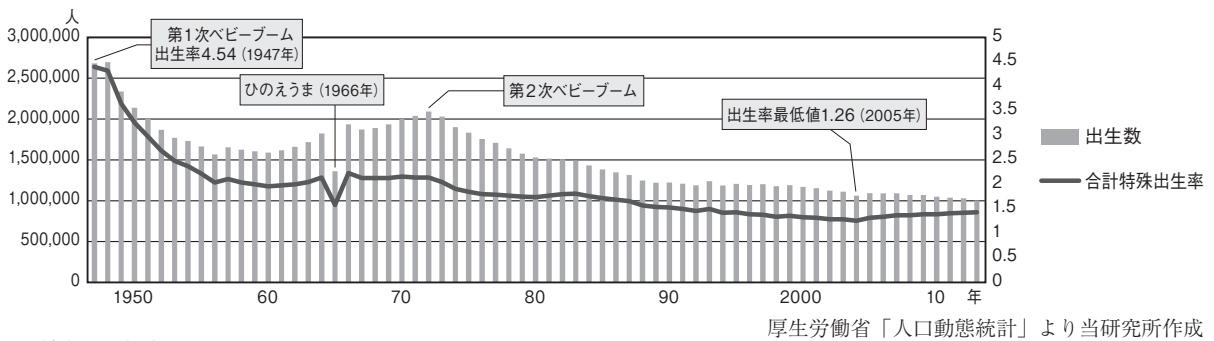
「出生率」は算出する考え方により、いくつかの種類に分類されます。

「普通出生率」は、一定人口（通常1,000人あたり）に対するその年の出生数の割合のことで、その年の出生数をその年の総人口で除して計算します。「出生率」というと、日本では後述の「合計特殊出生率」を指すことが多いのですが、日本以外では普通出生率を指すことが多いようです。

2. 合計特殊出生率

「合計特殊出生率」（以後、単純に「出生率」といいます）は、「15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの」と定義されています（厚生労働省 HP より）。換言すれば、「一人の女性が生涯に産む子供の数」を推定する指標です。

我が国の場合、「第1次ベビーブーム」の1947年に出生率4.54を記録したのち漸減、2005年に1.26の最低値を記録しました。ここ数年、微増傾向であり、2014年は1.43となっています（下図参照）。



3. 希望出生率

安倍総理大臣は、昨年9月に打ち出したアベノミクス「新三本の矢」の第二の矢として「夢をつむぐ子育て支援」を掲げ、希望出生率1.8を目指すとなりました。

「希望出生率」は比較的最近使われはじめた指標で、結婚して子供を産みたいという人の希望がかなえられた場合の出生率をいい、既婚率や未婚率に、予定・理想とする子供の数を掛け合わせる等により算出されます。2010年の出生動向調査の結果、「1.8」という数値が導き出されました。

4. 出生率アップのために…

県は、このままでは県人口が2040年に147万人、2060年には107万人まで減少、地域社会や行財政運営等の維持が困難になるとしています。少子化対策の先進国の出生率（2013年）をみると、フランス1.99、スウェーデン1.89、米国1.86などとなっていますが、今回の目標値はこれらを大きく上回り、それだけ問題が深刻である証左といえます。出生率アップのため、結婚や出産・子育てにかかる環境や制度の整備・充実を、官民あげて取り組んでいく必要があるものと考えます。

閑話ひとつ

- ▶ 新年あけましておめでとうございます。
- ▶ 夏目漱石の俳句に「新しき願もありて今朝の春」があります。これまでの願いがいくつか叶い、新年にはまた新しい願いごとをする。清々しさとともに何か先に希望が見えて私の好きな句です。皆さんの「新しき願」は何でしょうか。「心願成就」といきたいものです。
- ▶ 新年を詠んだ句といえば、昭和57年10月、「福島^{ふくしま}の進路」の創刊にあたり、当時の福島経済研究所の内池佐太郎理事長が高浜虚子の「一年の又はじまりし何やかや」の句を引用され、「この句は勿論、新年を詠んだものでありますが、新しい改まった感慨でこの句に近いものを感じ（中略）何やかやとふくらむ期待を抱いております。」と述べておられます。
- ▶ 新しい年のスタートにあたり、この創刊のことばをしっかりと心に刻んだところです。今年もとうほう地域総合研究所と「福島^{ふくしま}の進路」をよろしく願っています。(U.M)